

## 【67 例目】栃木県（那須塩原市）における 豚熱の患畜確認農場の現地調査概要

拡大豚熱疫学調査チームによる現地調査の概要は以下のとおり。

### （１）農場の概況

- ① 当該農場は、里山付近の川沿いに位置する一貫経営農場であり、農場の周辺は山林に囲まれていた。
- ② 農場周辺では野生イノシシの生息が多数確認されており、本年 3 月から 4 月にかけて、農場から半径約 6.0km 圏内の 3 地点（本年 4 月には約 3 km 地点）で野生イノシシの感染が確認されていた。

### （２）飼養衛生管理関係

- ① 飼養管理者は農場立入り時に、農場専用の長靴、作業着に着替えており、手袋を着用していた。
- ② 農場には飼養豚を管理する従業員が 22 名おり、各離乳・肥育、分娩のステージに作業者が分けられていた。
- ③ 発生豚舎である離乳豚舎に入る際は、離乳舎専用の長靴に交換していたが、2 舎ある離乳豚舎で長靴を共有しており、離乳豚舎間の移動の際には豚舎外の通路を移動していた。肥育舎に入る際は豚舎ごとに長靴を交換していたが、繁殖及び分娩豚舎は豚舎ごとに長靴を交換していなかった。また、全ての豚舎で踏み込み消毒を実施していたが、豚舎ごとに作業着及び手袋の交換、手指消毒は実施していなかった。
- ④ 飼料や豚の輸送車両等が農場に入る際には、農場入口の車両消毒ゲートで車両消毒を行い、運転手は農場が用意した長靴と作業着を着用していた。また、ペストコントロール業者等、豚舎内に立ち入る業者については、農場立入り時にシャワーを浴び、持参した作業着と農場が用意した長靴に交換していた。
- ⑤ 豚を豚舎間で移動する際は、分娩舎から離乳舎への移動は輸送用コンテナを使用し、離乳舎から肥育舎への移動は豚舎外の通路により出荷台まで歩行させた後トラックに積み込み運搬していた。また、母豚は豚舎外の通路を歩行させていた。通路、輸送用

コンテナ、トラックは使用前後に洗浄・消毒していた。

- ⑥ 飼料は、配合飼料を給与しており、食品循環資源は使用していなかった。
- ⑦ 農場では主にパイプラインで自動給餌していたが、分娩舎と離乳舎については豚舎内に保管している給餌車も使用していた。給餌車の畜舎への出入り時にその都度消毒は実施していなかった。
- ⑧ 飼養豚への給与水は、地下水に消毒薬を添加し給与していた。
- ⑨ 糞は、農場内で固液分離し、たい肥化していた。たい肥舎は建屋になっており、入り口の扉は使用時以外は閉鎖されていた。
- ⑩ 死体は豚舎内に保管し、化製処理業者が回収していた。この際、農場の車両が農場入り口に停めた業者の車両まで死体を運んでおり、業者の車両が農場内に入ることはなかった。

### (3) 野生動物関連

- ① 衛生管理区域の周囲には、金網フェンスが設置されており、農場出入り口には門が設置され、使用時以外は閉鎖されていた。
- ② 飼養管理者によれば、農場周辺でイノシシは目撃していないとのこと。農場敷地内では、ネコが確認されていたとのもので、調査時にも複数匹のネコを確認した。
- ③ 発生豚舎はウインドレス豚舎で、飼養管理者によればネズミはあまり見かけないが、殺鼠剤による対策は行っていたとのこと。また、その他の豚舎は開放豚舎であり、立入り時に畜舎内でネズミのものと思われる糞が確認された。

### (4) 臨床症状の経過

- ① 当該農場では令和2年4月に初回の豚熱ワクチン接種が実施されており、その後、継続的に豚熱ワクチン接種が実施されていた。
- ② 本年4月2日に発生豚舎で15頭の死亡が確認されたが、管理獣医師の解剖の結果、細菌性の肺炎を疑い、投薬を開始したとのこと。その後、死亡頭数は落ち着いたとのこと
- ③ 4月11日に発生豚舎で3頭の死亡が確認され、活力低下している豚が増加したため、15頭を淘汰したとのこと。この際には、PRRSを疑っていたとのこと。
- ④ 4月15日に発生豚舎で30頭の死亡が確認されたが、同日、当

該豚舎の豚を肥育舎に移動する際に、抗菌薬と豚胸膜肺炎ワクチンを全頭に接種した後に死亡が増加したため、その影響と考えたとのこと。

- ⑤ 4月16日も発生豚舎における死亡が継続したため、家畜保健衛生所に通報したとのこと。
- ⑥ 調査時には、発生豚舎及び同じロットの移動先の肥育豚舎で死亡、活力低下、神経症状、チアノーゼ、パイルアップが確認された。

(以上)